

新秋(しんしゅう)

登録番号：第2887号

登録年月日：平成3年11月19日

登録者：農林水産省果樹試験場
(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：山根弘康 栗原昭夫 来
永田賢嗣 山田昌彦

岸 光夫 吉永勝一

松本亮司 小沢俊治

角 利昭 平林利郎

井上真奈美

歴：「興津20号」と「興津1号」
の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は「伊豆」よりも強く「松本早生富有」なみである。樹姿は開張と直立の中間で、枝の発生密度は密、発育枝の長さは短い。雌花の着生は多く、雄花は着生しない。発芽期はやや早く、「伊豆」よりも2～3日早い。開花期は「西村早生」よりも2～3日遅く、「富有」よりも4～5日早い。単為結果性は「富有」よりも強く、早期落果および後期落果ともに少ないので豊産性である。勢いの強い新梢には大果が着きにくい傾向があるので、結実させる新梢の長さは25cm以下としたい。へたすきはへたの周囲に輪状に発生するタイプである。果頂裂果性が少しあり、種子が多いと果頂裂果を生じやすくなるので受粉は控えめにした方がよい。また、へたすき、果頂裂果性ともに結果量が少なく果実が急激に肥大すると生じやすくなるので、結果量を確保した上で夏場には十分かん水し、果実のスムーズな肥大を促す必要がある。

汚損果の発生が多く、汚損部位から軟化しやすく、露地栽培は難しい。汚損果の発生は、果実表面のぬれや薬剤散布によって誘発される。下向きの果実には果実の表面に水分が付着しやすいので、摘らいや摘果は上向きの果実を残すようにする。また、一般に樹冠内部は通風が悪く湿度が高くなりやすいので、夏季せん定などにより樹冠内部の通風に努める。袋掛けによる汚損果発生防止効果は、経済栽培の上ではほとんど期待できない。ハウス栽培では果実表面のぬれが少ないため発生が著しく減少するので、商品性の高い果実を生産するためにはハウス栽培が望ましい。

■果実特性

果実の熟期は「伊豆」と「松本早生富有」の中間の10月下旬である。果実は腰高の扁円形で側溝はない。果皮色は黄橙で、カラーチャート値で5～6である。果実重は250g程度、肉質は緻密、糖度は17～18%程度で「伊豆」や「松本早生富有」より1～2%高い。果汁は「富有」よりは少ないが、完熟した果実ではやや多くなり、食味は良好である。夏の温度の低い地域ではわずかに渋残りする。果頂部が先熟する傾向があり、糖度も果頂部が高く、20%以上になることもある。

■病虫害抵抗性

現在までのところ、カキの病害虫に対して特に弱いものはなく、通常の防除で良い。薬剤によっては果実の汚損を助長することもあり、特に夏以降の薬剤散布には注意する。

■地域適応性

茨城県以南の完全甘ガキ栽培地域で栽培可能であるが、露地栽培では汚損果の発生が多いのでハウス栽培が望ましい。ハウス栽培では汚損果率が低く、大果で糖度の高い果実が得られる。加温栽培による熟期促進効果も認められるので、ハウス栽培に適する品種といえる。
(佐藤明彦)